

チューター・ガイドブック

— 制度の概要とチューターの心得（第25版） —

2022年4月

長崎大学 留学生教育・支援センター

はじめに

<留学生のチューターになった皆さんへ>

チューターの皆さんの中には、チューターになって初めて留学生と接するという人もいるかと思いますが。留学生とどう接すればいいのか、不安に思っている人もいるでしょう。研究室でいつも留学生と接しているという人もいるかもしれませんが、チューターとして、具体的に何をすればいいのか、チューターとして、どんなことが期待されているのか、チューター制度やチューターの役割について明確に知っている人は少ないのではないのでしょうか。

そこで、チューター制度の概要とチューターの具体的役割、チューターとして留学生を支援していくうえでの留意点をまとめてみました。

現在、長崎大学には605名（57カ国）の留学生が在籍しています（2025年5月1日現在）。日本の大学で学位（学士号・修士号・博士号）を取得するために来ている留学生、1年間の交換留学で単位を長崎大学で取得しようとしている留学生など言葉も文化も違う国でこの目的を達成するためには、強い意志とたゆみない努力が必要です。それを側面から支援するためにチューター制度があります。

このガイドブックが、皆さんがチューターとして活動をしていくうえで、少しでも参考になればと思います。

目 次

I. チューター制度の目的と意義	1
II. 制度の概要	2
対象者・対象期間・実施期間/時間・謝金・チューターの資格・選考	
III. 提出書類とその作成上の留意点	
チューター実績簿	3
IV. 長崎大学に在籍する留学生について	
1. 留学生の数	4
2. 留学の種類	6
V. チューターの具体的な役割	
1. 渡日直後の援助	8
2. 勉学・研究上の援助	9
3. 生活上の援助	11
4. 対人関係上の援助	13
VI. チューターとして活動するうえでの留意点	14
VII. 留学生サポートのネットワーク	16
VIII. チューターとしての活動を通して得るもの	18
1. チューターと留学生（3組）の感想文	19
2. チューターを経験した人たちの活動内容と感想	27
(1) この半年の活動の中心は何でしたか。	28
(2) その中で困ったこと、難しかったことは何ですか。	33
(3) チューターの活動を通して得たことは何ですか。	39

I. チューター制度の目的と意義

チューター制度は、長崎大学に在籍する留学生に対して、大学が選定したチューターが、留学生の指導教員の指導の下に個別の課外指導を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的としています。

留学生は、言葉の問題や日本の大学制度に慣れていないことなど、勉学・研究上多くの困難をかかえています。また、生活上のさまざまな問題が勉学に影響を与えることもあります。



チューターの役割は、留学生と日常的に接触し、留学生のかかえる問題点をできるだけ早く知り、留学生の指導教員や留学生教育・支援センターの教員等と相談しつつ、留学生を支援することです。



大きな問題が起きてからその解決を図るというのではなく、そうした問題が起きないように留学生と**定期的**に会い、**日常的に支援**するという意味で、チューター制度は大きな意義があります。

II. 制度の概要

1. 対象者

長崎大学に在籍する留学生で、原則として新規渡日後1年未満の学生を対象とします。
留学生一人一人にチューターがつきます。

2. 対象期間

大学院（研究生を含む）所属の留学生については、原則として、渡日後最初の1年間です。協定校からの交換留学生についてはその留学期間（半年もしくは1年）に合わせてチューターが配置されます。

3. 実施期間

毎年度4月から翌年3月までの12か月間（前期は、原則として4月から9月まで、後期は、10月から翌年3月まで）実施します。

4. 実施時間

実施時間は、1回当たり2時間程度とし、年間100時間、半期50時間を標準とします。

5. 謝金

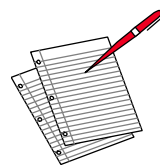
1時間1,000円程度です。所得税の源泉徴収の対象となり、年間の所得額によっては所得税が徴収されます。

6. チューターの資格・選考

長崎大学の学生（学部留学生のチューターは2年生以上）であって、その留学生の専攻する分野に関連のある者のうちから、指導教員等の推薦または一般公募により大学が選考します。

また、登録制のチューターについては随時募集しています。詳しくは（ホームページ https://www.liaison.nagasaki-u.ac.jp/?page_id=204）を参照してください。

Ⅲ. 提出書類とその作成上の留意点



チューター実績簿

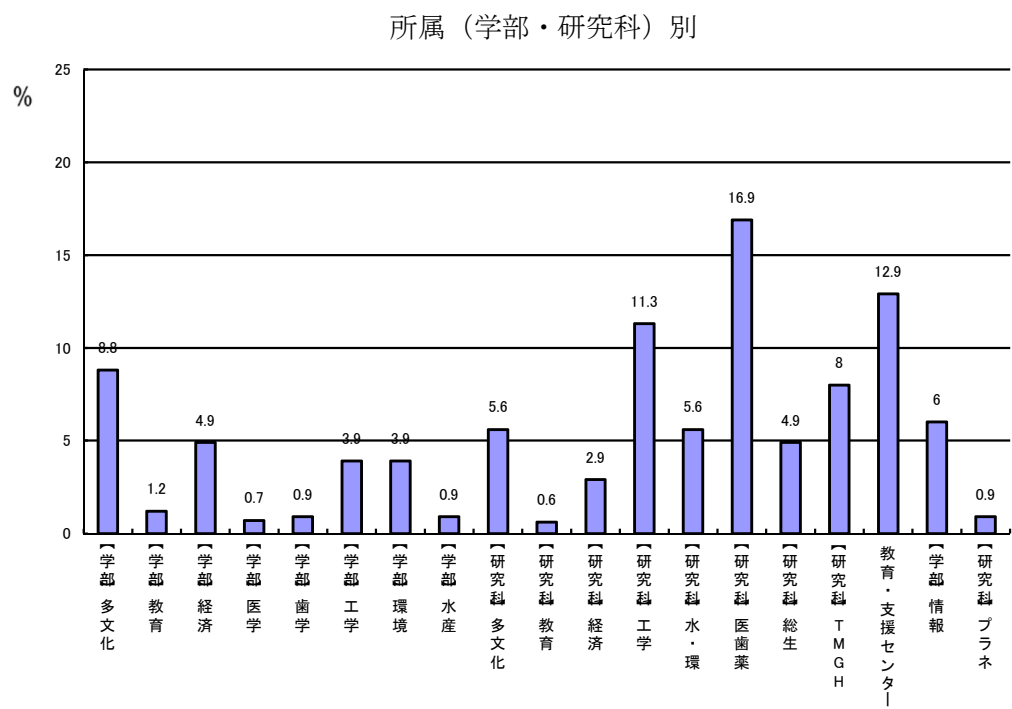
チューター実績簿（所定用紙）にその月（4月であれば4月分のみ）の指導内容を記入し、指導教員（または留学生担当教員）の確認を受けて、翌月の1日までに学生支援部 留学支援課に提出してください。

また、指導内容はその都度具体的に記入するように心がけてください。謝金は、提出された「チューター実績簿」に基づき、原則として翌月末にチューター指定の銀行口座に振り込まれます。

IV. 長崎大学に在籍する留学生について ※2025 年 6 月差し替え

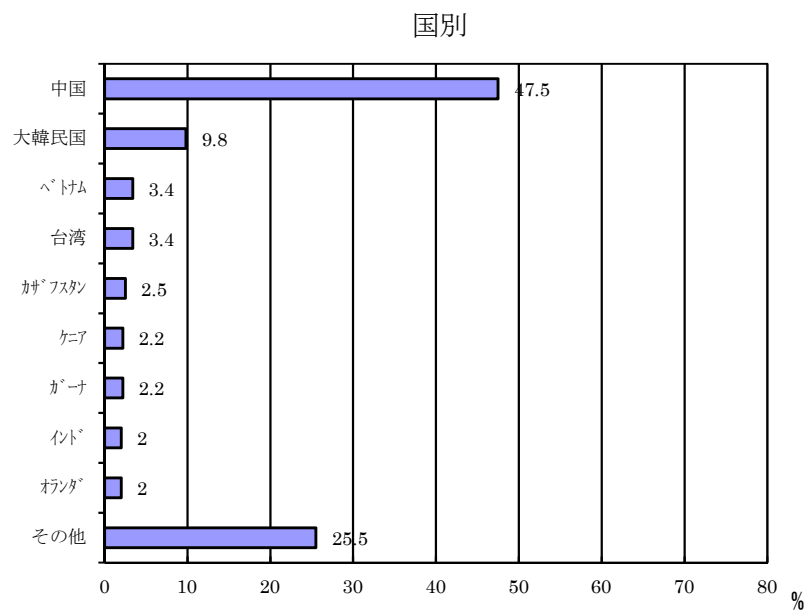
現在、長崎大学には 605 名（57 カ国）の留学生が在籍しています。
（2024 年 5 月 1 日現在）

1. 留学生の数



単位（人）			
【学部】多文化	35	【研究科】多文化	34
【学部】教育	14	【研究科】教育	3
【学部】経済	28	【研究科】経済	19
【学部】医学	1	【研究科】工学	30
【学部】歯学	1	【研究科】水産・環境科学	21
【学部】薬学	1	【研究科】医歯薬	124
【学部】工学	24	【研究科】総生	79
【学部】環境	24	【研究科】TMGH	52
【学部】水産	4	【研究科】プラネタリーヘルス	11
【学部】情報	32	留学生教育・支援センター	68

計 593 人



単位（人）

中国	287	ケニア	13
韓国	59	ガーナ	13
ベトナム	20	インド	12
台湾	20	オランダ	12
カザフスタン	15	その他	605

計 605 人
国（地域）数 57 カ国

2. 留学の種類

留学は大きく、学位取得（学士号・修士号・博士号）を目的としたものと、自国の大学に籍を置き、一定期間（原則として1年以内）留学する短期留学の二つの種類に分けられます。

(1) 日本の大学の学位取得を目的とする留学

・学部留学生

日本の大学で学士号を取得するために来日している留学生です。

自国で日本語を学習し、更に日本で大学の留学生別科の日本語コースや日本語学校で日本語を集中的に勉強した後、「日本留学試験」を受験するのが一般的です。

かなり高い日本語能力（英検1級とほぼ同程度）が要求されます。

留学期間：4年 入学時期：4月

・研究留学生（研究生・大学院生）

日本の大学で修士号・博士号を取得するために来日している留学生です。

大学を卒業してから仕事や研究に従事していた人も多く、休職の形で留学して来る人もいます。

専門の研究に関しては、英語で行われる場合が多いため、来日してから日本語の学習を始める人が多く、まず、留学生教育・支援センターの日本語コースに在籍し、日常生活に必要な日本語を勉強するのが一般的です。

年齢は20代後半が中心で、結婚している人も珍しくありません。その場合、日本留学後、家族を呼び寄せるケースが多く見られます。

留学期間：2年半から7年 入学時期：4月もしくは10月

(2) 学位取得を目的としない留学：短期留学（学部3・4年生、大学院生）

留学生は母国の大学に在籍しつつ、長崎大学で、半期もしくは通年（1学年以内）学習・研究を行います。原則として長崎大学で取得した単位が母国の自分の所属する大学で認定されることになっています。

この短期留学には、大学間協定に基づき留学先の大学での授業料が免除される交換留学（人数枠有）と、交換留学枠外（授業料徴収）での留学があります。

長崎大学の場合、短期留学生のほとんどが自分の専門が勉強できる学部・研究科に所属して、日本語やその学部の専門の科目を履修する交換留学生ですが、日本語・日本文化専攻の学生で留学生教育・支援センターに所属し、日本語や日本事情等に関する科目を履修する学生もいます。

留学生教育・支援センターのプログラムは以下の2つです。

*** 日本語・日本文化プログラム（JLCP）：定員 50 名（交換留学枠 30 名・有料枠 20 名）**

自国の在籍大学で日本語・日本文化を専攻している学生、または、日本語・日本文化の学習を主たる目的とする学生を対象にしています。

日本語と日本文化の科目を履修します。講義はすべて日本語で行われます。

留学期間：1 年、または、半年 入学時期：10 月、または、4 月

*** ライデン大学日本語・日本文化コース（LJC）：定員 15 名（交換留学枠）**

ライデン大学日本語・日本文化専攻の学生を対象としたコースです。

中級レベルの日本語及び日本文化の科目を履修します。

留学期間：半年 入学時期：4 月

V. チューターの具体的な役割

留学生によって状況は異なりますが、一般的には、次のようなことがチューターの仕事になります。

1. 渡日直後の援助

担当する留学生が新規渡日の留学生の場合、特に以下のような支援がチューターの最初の役割になります。

(1) 留学生の出迎え

留学支援課が指定する期間外に渡日した留学生については、チューターが海外から長崎に到着した留学生を長崎駅等到着地まで迎えに行きます。留学生を出迎えるにあたっては、待ち合わせ場所、時間をお互いに連絡してください。

待ち合わせ後、そのままタクシー等で大学の寮（西町もしくは坂本、ホルテンシア）や民間アパート等へ移動してもらうことになっています。

留学生にとって、慣れない外国に到着した時、これから留学生生活を送る大学の学生が迎えに来てくれるのは安心ですし、本当にうれしいものです。にこやかに出迎えた後、自己紹介をし、その日の日程等を説明しながら、寮に向かってください。

寮などに到着後、留学生は学生支援部 留学支援課での手続きが必要ですので、文教キャンパスにある学生支援部 留学支援課へ案内してください。

(2) 市役所での手続き

留学生は渡日後すぐに市役所で以下の手続きをしなければなりません。学生支援部 留学支援課で関連書類を一式受取って、留学生と一緒に市役所に行き、これらの手続きを手伝ってください。

- 住民異動届の提出
- 国民健康保険加入手続き
- 国民年金加入手続きおよび免除申請

※交換留学生の渡日期間は、留学支援課で指定しています。その期間に渡日した交換留学生については、出迎え、寮への案内は留学支援課が対応します。

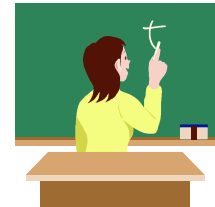
研究生、大学院生等については渡日期間を指定していませんが、指定期間に渡日した場合は留学支援課で対応する場合があります。ただし、大学の寮ではなく民間のアパートに入居する場合は、アパートへの案内はできません。

2. 勉学・研究上の援助

(1) 日本語力の向上のための援助

留学生の多くは日本語の問題で悩んでいます。留学生教育・支援センターの日本語コースなどで授業を受けたことのある学生、また、現在受けている学生もいますが、おそらく十分ではないでしょう。日本語について、疑問やわからないことがたくさんあるはずです。質問に答える、語句や言い回しを教える、漢字の読み方や書き方を教える、適当な辞書や参考書を探すなどして、留学生の日本語力の向上のために留学生と一緒に努力してほしいと思います。

分からないことがあったら、留学生教育・支援センターの教員に相談してください。また、長崎大学に在籍する留学生は誰でも留学生教育・支援センターで開講している日本語コースを受講することができます。初級レベルから上級レベルまでのコースを開講しています。



(2) 専門分野についての援助

チューターは、その留学生の専攻する分野と同じか、もしくは関連のある分野の者のうちから選ばれることになっています。日常生活を送るうえでは不自由しなくても、日本語での専門の講義やゼミでの発表・討論、レポートの作成等には困難を抱えている留学生が少なくありません。チューターはこれらを考慮し、担当留学生の専門の学習・研究がスムーズに進むように援助してください。何か問題がある場合は、指導教員や担当の教員と相談して、解決のための努力をしてください。



大学院の受験を予定している場合は、その手続きや入試の内容等について情報を集めて留学生に知らせ、準備の手助けをしてほしいと思います。

(3) 事務的な事柄についての援助



大学で勉学を続けるためには、種々の事務的な事柄を処理していかなければなりません。例えば、奨学金の申請、授業料減免の申請、入寮の申し込み、医療費補助の申請、その他様々な申し込み、大学院の入試の願書提出等々です。

掲示を見過ごしたり、申込書に不備があったりした場合、大変な不利益を被ることになります。チューターは、留学生がこうした手続きを一つ一つ

きちんとこなしていけるようできるだけ目配りをし、

書類の作成を手伝うなど、様々な援助をする必要があります。

担当の留学生が私費留学生の場合、奨学金申請や授業料減免の申請は留学生生活を続けていくうえで非常に重要なことなので、期日に間に合うように、はやめはやめに対応してください。



3. 生活上の援助

(1) 日常生活のための基本的な情報の提供*

長崎に来たばかりの留学生には、次のような情報が必要です。

- 住民異動届を提出する場所（市役所）、手続きに必要なもの
- 銀行・郵便局・入国管理局等の場所
- 口座の開設・携帯電話の契約
- 寮* あるいはアパートでの生活の仕方
 - ・台所やトイレの使い方、ゴミの出し方
 - ・電気・ガス・水道・電話等の契約・支払い方法、等々
- 日常的な買い物をする店

これらについては学生支援部 留学支援課でも対応しますが、「1. 渡日直後の援助」にも書いたように、チューターの援助が必要になります。

* 留学生の寮としては、「西町国際交流会館」と「坂本国際交流会館」に加え、留学生と日本人学生（多文化社会学部）が一緒に暮らす白鳥の「国際学寮ホルテンシア」があります。

* 公益財団法人長崎県国際交流協会のホームページに、「病院に行く時につかう本」、「知っておこう！災害が起こるその前に！！」などとても参考になる情報が多言語で掲載されています。下記リンクから閲覧可能です。

<https://www.nia.or.jp/index.php/page/life>

(2) アパートを探す場合の援助

日本でアパートを探す場合、部屋代・敷金等が高い、保証人を要求される、外国人は敬遠される場合がある等、いろいろ難しい問題があり、留学生が援助を必要とする代表的なものの一つです。

国際交流会館に入居できる留学生もいますが、多くの留学生が民間アパートに入居します。留学生から相談を受けたら、まず大学生協に相談してください。

生協ホームページで物件を探すこともできます。チューターは、一緒に民間アパートを見に行くなどして、留学生が少しでも条件のいい部屋を借りることができるよう支援してください。

民間アパートに入居するときは、保証人が必要になりますが、「留学生住宅総合補償」に加入すると長崎大学が保証人（機関保証）になってくれます。

また、「留学生住宅総合補償」の加入費については、長崎大学西遊基金から補助を行っています。保証人の手続きは、学生支援部 留学支援課で行っていますので、留学生自身が学生支援部 留学支援課にきて長崎大学留学生住宅保証標準契約書を受け取った後に、不動産会社に提出してください。

(3) 経済的な問題について

日本人学生が海外に留学する場合、交流協定校との交換留学制度（授業料不徴収）を利用する以外は、**私費留学（授業料と生活費全てを自費で賄う）**のケースが大多数を占めるでしょう。また、交換留学であっても、特別な奨学金が得られない限り、生活費は自費になります。

留学生の場合も同様です。しかも、日本は物価が高く、自国では十分な生活レベルを維持できる金額を所持していても、日本での生活は大変だと感じる留学生も多いです。奨学金の数も限られているので、留学生の多くがアルバイトをしながら勉強しています。



アルバイトをする場合は学生支援部 留学支援課に「**資格外活動許可**」の申請をする必要があります。

また、長崎大学では**来日後3か月間はアルバイトが禁止**されており、時間も制限されています。

（許可を出すのは入国管理局です。）

担当の留学生が経済的な困難に陥った場合、チューターは指導教員や担当教員、留学生教育・支援センターの教員に連絡するなどして、解決の方法を探ってください。

4. 対人関係上の援助

(1) 指導教員との関係

留学生にとって、指導教員との関係は日本留学の成否を決定すると言っても過言ではありません。大学院生はもちろんですが、学部生の場合でも、先生と良好な関係が築けるように、早めに、指導教員の研究室へ案内してください。

また、学生と指導教員との関係のあり方は、国によってかなり差があるようです。留学生にとって戸惑うことも多いでしょう。チューターは時には指導教員と留学生の連絡調整役になり、留学生をサポートしてほしいと思います。

(2) 他の留学生や日本人学生との関係

留学生は、所属する研究室やゼミ、サークルなどで、他の留学生や日本人学生との間で問題が生じることもあります。先輩・後輩の関係など、留学生によっては戸惑うこともあるでしょう。コミュニケーションの取り方も文化によって違います。

また、宗教や時間的・金銭的な制約によって、飲み会等に参加が難しい留学生もいます。チューターは日常的な接触を通して、留学生のよき理解者となるように努めてください。

(3) 学外での人間関係

また、アパートの隣人や大家、アルバイト先などの人間関係に悩むこともあります。そんなときは何が問題になっているのか、留学生の話をよく聞くことが大切です。そして、まず留学生の立場になって、留学生の気持ちを十分理解するようにしてください。その上で問題の正確な状況をつかみ、客観的な判断ができるようにしてください。

解決が難しい問題は、指導教員や担当教員、留学生教育・支援センターに相談してください。

VI. チューターとして活動するうえでの留意点

1. 文化の違いを認識し理解する

留学生は、これまで、異なる文化（宗教を含む）・生活習慣の中で生活してきました。皆さんにとっては当然であることも留学生にとっては全く想像外であることもあるでしょう。チューターは、そうした点を十分踏まえたうえで、留学生の言動や行動について判断してほしいと思います。



特に、日本人学生同士、または研究室内で当然のこととして行われていること（**暗黙のルール**になっているようなもの）は、留学生にとって察することが難しいものです。誤解を避けるためには、**明確な説明**と**話し合い**が必要です。

また、日本に留学したのだから、「郷に入っては郷に従え」と一方的に日本の文化や生活習慣を押し付けるのではなく、文化の違いに**寛容**である必要があります。その上で留学生に日本の文化・生活習慣に関する情報を提供し、理解してもらうようにしてほしいと思います。

2. 留学の目的が達成できることが最も重要な課題であることを認識する

留学生は、具体的な目的（学位取得、特定のテーマについての研究、日本語の上達等）をもって、長崎大学に留学しています。留学生にとっては、その目的が達成できることが最も重要なことです。

チューターは、その目的を十分理解し、それが達成できるように援助する必要があります。

3. 留学生の自立を側面から援助するという観点で行動する

チューターは、留学生の自立を側面から援助する、という観点で行動する必要があります。留学生が困っているからといって、請け負いの的に何でも引き受けてしまうのは避けなければなりません。

常に留学生とともに考え行動する姿勢をとってほしいと思います。

4. 留学生の要求・希望に対して曖昧な返事をしないようにする

留学生の要求にチューターとしてどこまで応えることができるのか、できることとできないことを曖昧にせず、常にはっきりさせてください。

また、無理な場合はその理由とともにはっきりとその旨を伝えるようにしてください。

はっきり言わなくても、相手が察してくれるだろうという姿勢で望むと、留学生を混乱させたり、お互いの信頼関係を損なったりする恐れもあります。

5. 自分の力量を越えた問題は教員等の援助を受ける

チューターを引き受けたからといって、すべて自分で解決しなければならないということはありません。

困難に直面したときは、問題の性格によって、留学生の指導教員や留学生教育・支援センターの教員、事務の担当者、他のチューター等に相談し、多くの人の知恵で解決していくという姿勢で対応してください。（Ⅶ. 留学生サポートのネットワーク参照）

6. 守秘義務

留学生の個人的な情報や秘密を留学生本人の了解なしに他の人に話してはいけません。

Ⅶ. 留学生サポートのネットワーク ※2025 年 6 月差し替え

学内には以下のような留学生をサポートするためのネットワークがあります。

- ＊ 事故・盗難等があった場合は、必ず、学生支援部 留学支援課および留学生の指導教員に報告するようにしてください。

<留学生教育・支援センター（学生支援部 留学支援課）>

平日 8 : 45～17 : 30

TEL 095-819-2237

Email : ryugaku_shien@ml.nagasaki-u.ac.jp

<各学部・大学院（留学生指導主事）>

各学部・大学院には**留学生指導主事**（留学生担当の教員）が配置されています。

留学生指導主事は学部によっては担当教員が固定されている場合もありますし、年度ごとに交代する場合もあります。

各学部・大学院の留学生指導主事名簿については、下記をご確認ください。

<https://nudrive.nagasaki-u.ac.jp/public/copVAZLKqiNT27dlvESgoxw9ozRQEGRLVAYPHHNSSegW>

PW: tutorguidebook2025

<障がい学生支援室>

ピーター・バーニック support@ml.nagasaki-u.ac.jp

- ＊日本語・英語、どちらでも対応可。

留学生は来日後、ゼロから人間関係を作っていかなければなりません。学内だけでなく、学外、つまり地域の人たちとどんな交友関係を作っていくことができるかも、留学生生活を続けていくうえでとても重要なことです。留学生教育・支援センターでは、地域の中にも留学生の支援のネットワークを広げ、留学生をよりよくサポートしていくために、地域の留学生支援・交流団体（グループ）と協力関係を築いています。

VIII. チューターとしての活動を通して得るもの

以上のように、チューターの役割は非常に重要です。また、苦勞も多いと思います。謝金は出ますが、費やす時間や労力に比べれば、高いものではないでしょう。

しかし、自分とは違う文化的背景をもった人たちとの出会いから学ぶものも大きいと思います。これまでとは違った新しい世界が開けるかもしれません。意欲をもって取り組んでほしいと思います。



以下に、留学生とチューター（3組：2017年度）の感想文を掲載するとともに、チューターを経験した人たちの活動内容と、それについての感想（チューター活動報告書から）を紹介します。

これからの皆さんの活動の参考になればと思います。

2018 年 3 月

チューターの活動を通して

水産・環境科学総合研究科 修士 2 年

GAO YILI

私は台湾からの留学生、LEE YIJHEN さんのチューターを担当させていただいています。私も留学生なので、留学生としてやらないといけない手続きや日常生活の悩みなどをよく知っています。彼女が日本に来る前に、私は彼女についての状況をほぼ知っていませんでしたため、いろいろな「無駄」な心配をかけました（笑）。

例えば、日本語が通じているのか？仲良くなれるのか？このような「無駄」な心配をかけて、彼女に会いました。

彼女は 2017 年 4 月に日本に来て、今まで私が彼女と出会ってからおよそ 8 ヶ月が経ちました。初対面の時、彼女の一番深い印象とは日本語が非常にうまいです。日本で日常会話や生活などぜんぜん問題がないです。彼女に「無駄」な心配をかけてしまって、こちら側が逆に恥ずかしいと思いました。

彼女がこちらに来てから、私たちはいろいろなところに遊びに行ったり、いろいろな美味しいものを食べに行ったりして、たくさん美しい思い出を作りました。LEE さんはとっても優しい人なので、何かがあっても互いに考えてくれて、聞いてくれて、本当にありがたいです。LEE さんがいるからこそ、研究室の日々どんどん楽しくなってきました。彼女のチューターになって、本当に良かったと思っています。もちろん、LEE さんと知り合ってから以来、いろいろな悩みもあるけれども、ちゃんと話し合えば、なんとか解決できます。

チューター活動を通して、私もよく成長したと思います。

2018 年 3 月

チューターの高さんについて

水産・環境科学総合研究科 博士後期 2 年

李宜珍 LEE YI-JHEN (リーイージェン)

日本に来てから既に約一年過ぎました。今思えば、まさか私はこうして外国に留学し、さらに一番好きな国—日本に来るとは、本当に思いつかないことだった。日本に過ごす間、感謝すべき人は他ではなく、私のチューター—高さんであります。もちろん、日本に出会った人々にも感謝の言葉はいっぱいあります。その中で高さんは特別の中の特別である。高さんは私と同じ外国留学生だけど、彼女の日本語はとても上手です。つまり、高さんは私が抱えている問題をよく知っていて、そしてその解決方法もよく知っていた。同じ言葉を使うということだけで、私にとってとても大きな安心感をもたらされました。

高さんと一緒に過ごす時間は凄く楽しかった。たとえば一緒に買い物に行ったり、或いは一緒に温泉旅行に行ったり、食事をしたりお茶を飲んだり、この平凡な日常の時間だけでもとても意味がある時間です。なぜなら、それは二人でちゃんと話しているからです。その間、中国語だけではなく、日本語もちゃんと使っていた。特に日本人の友達と一緒に出かける時、高さんのお蔭で、色んな「生きてる」日本語と文化を習いました。このことだけでも、既に日本に来てよかったと思います。

高さんからの助けはいっぱいありました。それについて、私からの感激も数え切れないほどありました。この一年間、色んなことがありましたが、それを含めてとてもいい経験でした。

本当にありがとうございました。

2018 年 3 月

チューターの活動を通して

水産・環境科学総合研究科 博士前期課程 2 年

外山 寛隆

私は、2017 年の 4 月から韓国人の留学生であるイムドンフンさんのチューターとしてこの一年、関わりを持つ機会を頂きました。

当初、チューターの活動を亀田教授から打診された際は不安な気持ちがありました。私は学生時代に留学生との



関わりを積極的に取り組んではおりませんでした。そのため、まだ見ぬ留学生との意思の疎通を図ることができるのかどうか不安でした。そして、留学生のイムさんと初めてお会いした際に、当初抱いていた不安が解消されました。その理由としまして、イムさんが私に対して友好的に接して頂いたからです。そのため、私の方も積極的にイムさんとの関係性を友好的に保ちたいと思いました。

そうした中で、やはり言語の壁が立ちはだかりました。イムさんは英語のコミュニケーション能力が優れていたため、簡単な英会話を用いて私との対話を円滑に進めようとして頂いておりました。

しかし、私の方が英語は不得手であったため、当初は会話がスムーズにいきませんでした。そうした事態に対応するために、イムさんとの会話を行う際には電子辞書を用いて簡単な英会話とジェスチャーを交えながら会話を行っていました。しばらくして、日本語の講義が開始されたことで、イムさんは英語でのコミュニケーションを行わずに、日本語を用いて私との会話に取り組もうとしていました。そうした積極的な姿勢を目の当たりにしたことで、私も普段用いない主語と述語を交えながらゆつくりと、日本語の会話を進めていくように努めました。このような対応を継続して行ううちに、2017 年の夏頃にはイムさんの日本語が上達していきました。

この頃には、イムさんは自身の出身の話やこれまで取り組んできた内容について、私や研究室に所属している 4 年生の学生さんに対して、積極的にコミュニケーションを図っていました。

また、博士後期課程の大学院生としてイムさんは長崎大学に留学されてきたため、この時期には日本語で記載されている研究論文の熟読や理解に取り組んでおりました。

この時点で、私が積極的にイムさんに関与することを極力止め、イムさんが困った際に支援ができるような形で接するようになりました。それは、過度に干渉をしてしまうと留学生の成長（日本語や研究を含めた）を妨げてしまう可能性があったからです。

こうした対応を経ることで現在に至りますが、イムさんは将来希望している就職先についての学習や研究活動を積極的に取り組まれています。後期課程の修了まで2年ほどありますが、残りの期間を満足のいく形で今後も取り組んでもらえたらと思っています。私は今年度で修了するため、今後のイムさんの活動に注目することはできないのですが、これからも陰ながら応援させて頂きたいと思っております。

2018 年 3 月

チューターの外山さん

水産・環境科学総合研究科

博士後期課程 1 年

イム ドンフン

昨年、日本に来た時、私は日本語が上手ではありませんでした。簡単なあいさつの言葉とひらがなしか知りませんでした。それで日本での留学生生活を始めた際に色々な心配がありました。

しかし、チューターの外山さんの助けを借りて、多くの困難を克服することができました。銀行で口座を開設することから、契約したマンションのガスや電気の開通まで外山さんからのサポートを受けました。直接私のマンションに来て日本の生活に必要な細かい部分までコメントを頂きました。

それだけでなく、私の勉強についてもお手伝いをして頂き、今までもそうした支援が私にとって多くの役に立っています。私は博士後期課程の学生として日本に留学をしたために、日本語の語彙力が足りないことにも関わらず、学科のセミナーなどに毎回参加して勉強をしなければならない状況に置かれていました。学校の初級日本語講座を通じて日本語の勉強を始めたが、学問的な意見の交換や討論をするのは全く違うレベルのものでした。しかし、同じ学部の大学院生である外山さんからセミナーを準備する方法や発表の方法等について、多くの助言を聞くことができました。そして外山さんは自分の発表資料の最後には、難しい単語の意味と読む方法（ひらがな）を添付して、いつも私を配慮してくれました。

大学院の先輩として外山さんは私が目標に掲げて尊敬した存在でした。何を調査してどのように文章を書いてどのように発表しなければならないのか、最初の私は日本での研究に関して何も知っていないところがありました。

しかし、外山さんの発表を聞いて、誠実さを見ながら“あの人に付いて行けば良いよね”と思いましたし、その結果、少しずつ前に進むことができました。まだ、日本語の語彙力や研究のレベルは未熟な部分はありますが、昨年 10 月には東京で開かれた学会で私の研究を日本語で発表し、最近日本語で論文を書いて学会に投稿の申請を完了しました。そして、このすべては外山さんのおかげだと思います。

私も韓国で大学生活をする際、中国やアフリカから来た留学生たちのチューターになって助けを提供した経験があります。しかし、日本で立派なチューターにお会いして以後は、私が当時行っていたチューター活動を振り返ると多くの不足した点があることが分かりました。

そうした中で、私が外山さんとお会いできたのは私の留学生活と人生で最も重要な幸運だと思っています。来年度から、外山さんは卒業をして社会に出て、私はこれからも 2 年間学業を継続していく予定です。外山さんの健康と幸運を祈りながら、私も頑張って他の留学生に価値ある助言のできる人になれるように今後も学習を継続していく所存です。

2018 年 3 月

チューターの活動を通して

教育学部

黒田 彩可

「留学生のチューターをやってみない？」

教授からそんな誘いのメールを頂いたのは、進級を控えた頃でした。チューターって何？
そんな風に首を傾げたことを思い出します。チューターは当時の私にとっては縁のない言葉の響きでした。私自身、然程英語が出来る訳でもないですし、中国語が話せるわけでもない。
今考えればマイナスな言葉ばかりだったことを記憶していますが、実際に1年終えてみると、楽しかったと言えるほどです。

中国人留学生の李さんとは、週1回を基本として時間を共にしました。基本としてはレポートの誤字訂正や日本語として意味が通じる文章が作成できているかの確認です。

また、履修を同じくしていた講義に関しては、テスト勉強を行う事もありました。

李さんの所属が教育学部である事もあり、互いの教育現場での取り組みを聞き合ったりしました。
また、互いの習慣を話の話題にすれば、感覚の相違にカルチャーショックを受けたりしました。
異文化理解を行う面でも、非常にいい刺激を受けました。

留学生との交流をこれまで殆ど行ってこなかった私にとっては、価値観や考え方の異なる友人が出来たようで嬉しかったこともあり、チューターという機会を通して異文化交流を行う事が出来、いい経験となったと感じています。

きっと他の感想レポートでも同様に綴っている方がいらっしゃるでしょう。

何かを得る事が出来た、何かを学べたという事は人生において非常に重要なことであると感じています。また、李さんとの出会いを通して他の留学生との出会いもありました。ただチューターとしての活動で満足する事なく、その輪を広げる事が出来ました。

大学生活を円滑に行う。あるいは楽しむ。様々な目的を持って日々を過ごしていますが、そこに新たな風を誘い込むのも良き手立てではないかと感じます。私にとっては、チューターとしての活動が、その新しく吹き込んだ「風」だったのではないかと、この1年の活動を通して感じるのです。

故郷が違えば優劣が付くのか、チューターとして留学生を指導するのか、支援するのか。
そうではないと思います。日本を知って貰い、中国を教えて貰う事が出来た、メディアでは語られない奥深いものがあつたと感じています。

初めてチューターとして活動を行う方がどれ程いるのかは分かりませんが、もしこの拙い文章を最後まで読んでくださった方がそうであるならば、どうか少しずつで良いので、歩み寄ってみてください。

私個人としての感想とはなりますが、楽しかったと言える何かが、見つかるかもしれません。

2018 年 3 月

チューターの黒田さんについて

長崎大学 教育学部
李 婕 (リ ショウ)

昨年の 3 月から今まで、一年の交換留学生生活がいよいよ終わるところ、この間のことを顧みると、すべていい思い出になりました。

チューターの黒田さんとの初めて会うのは 4 月 5 日の夕方頃、大学の『学生プラザ』の前のことでした。その時、「生協」と「学生プラザ」の前、人が多くて、どちらがチューターかと悩んでいるところ、黒田さんが微笑んで向こうから来て、「李さんですか」と聞かれて、その人はチューターだとその時に知りました。「はい!」、私は嬉しく答えました。資料を抱える黒田さんは私を学生プラザのなかに導かれました。二人は座って話し合いが始まりました。

このような光景はその時から毎週の金曜日に、図書館のラーニングコモンズで常態になってきました。

黒田さんのおかげで、来日の最初の勉強や生活は順調のように進めました。大学の勉強では、最初に自分の選択した講義を教えたとき、黒田さんは大学の施設も逐一教えてくれたのは本当に助かりました。それだけでなく、課題のレポートの指導もしていただいたのはありがたいと思います。普段、先生との面談も、彼女のお助けて、お互いに理解ができるようになりました。生活では、台風やインフルエンザの時期や季節が変わる折のようなとき、黒田さんのラインから暖かな心配りをこめるメッセージが送られたこともありました。

日本に来てから、日本人とお食事や遊びをする回数は、両手で数えます。その中、黒田さんと一緒に観光通りを遊んだり、インド料理を食べたりしたことが忘れない記憶になりました。黒田さんはいい話し相手だと思います。彼女との会話は、わからないことで、途中で何度も話の腰を折ることがありました。本当にもうしわけないが、彼女はいつも持っている携帯やパソコンを利用して、その言葉の図を探して紹介してくれて、理解やすくなりました。二人の国の違うところをよく話しました。自分が経験した小学校、中学校、高校の生活や最近やっていたことなど普通な話題がつまらないはずだが、日本語でしゃべることと二人の違う経験を並べることになると、逆に面白くなりました。

黒田さんは日本の習慣や文化のものなどをいろいろ教えてくれました。また彼女の行為からもいろいろ影響を受けました。黒田さんは明るい性格を持っていて、何があっても、笑顔で迎えて、彼女の朗らかな笑う声が雰囲気を盛り上げる力を持っています。この前の面会で、彼女の夢の話を聞かせてもらいました。本当に凄いと感じます。将来、彼女は夢を叶って素晴らしい先生になるように祈ります。

一年間の中に、黒田さんとの出会いは本当よかったと思います。長崎大學での目標の単位をとってから、そろそろ帰国してしまうことになります。

長崎とこちらの人々と黒田さんとの改めて出会いは久しぶりのことになるかもしれません。

しかし、卒業して就職して何年間が経っても、此方でのいい思い出は忘れられないです。

ある日、黒田さんが先生になったという連絡が来るとき、懐かしいことを思い浮かべて笑うようになることでしょう。

一年間、いろいろ、ありがとうございました。

チューターを経験した人たちの活動内容と感想

「チューター活動報告書」より

*チューターの皆さんの活動報告書の内容を以下のようなカテゴリーでまとめてあります。
参考にしてください。

(1) この半年の活動の中心は何でしたか。

- ① 日本語力（日本文化理解）の向上のための援助
- ② 専門分野についての援助
- ③ 事務的な事柄についての援助
- ④ 生活上の援助
- ⑤ その他

(2) その中で困ったこと、難しかったことは何ですか。

- ① 文化や習慣に関すること
- ② 言葉・コミュニケーションに関すること
- ③ 担当留学生との関係に関すること
- ④ 勉学・研究の指導に関すること
- ⑤ その他

(3) チューターの活動を通して得たことは何ですか。



(1) この半年の活動の中心は何でしたか。

① 日本語力（日本文化理解）の向上のための援助

- ・ 日本語会話の練習。日本・日本文化・長崎に関する質問。
- ・ 日本文化（日本語）を知ってもらうことに重点を置いて活動した。交流会を開いたり、長崎の観光に行ったり、実家にも何度か一緒に帰省した。
- ・ 日本語が全く話せない状態で日本に来ていたので、できる限り日本語になじんでもらえるように努力した。友達に紹介したり、お茶会につれて行ったりした。
- ・ 日本語でコミュニケーションがとれるようになること、ニュアンスを理解してもらうこと、普段日本人が使わない言葉や間違った表現を指摘すること。
- ・ 留学生は日本語で話す機会を多く持たなかったようなので、会話を中心としました。
- ・ 日本語1級検定の勉強。合格するだけでなく、実際に日常でも使えるように、検定の問題集だけでなく、日本語の会話や読み書きを通して勉強しました。
- ・ 留学生が研究生という立場だったので、これからのことを考えると日本語がかなり重要だと思い、日本語の指導に力を入れました。
- ・ 日本語会話の相手。授業以外で日本人と話す機会を作ること。友人が作れる環境を与えることにいちばん時間を費やした。
- ・ 正しい日本語の使い方。先生と話す時、アルバイトをするときなどの敬語の使い方。
- ・ 九州の方言に戸惑いを感じていたようだったので、方言についてよく話した。
- ・ 長崎や九州内で行われる日本文化を体験できる催しの紹介。

② 専門分野についての援助

- ・ 授業や単位の説明。数学や力学の指導。

- ・ 実験における操作、結果の解析等、実験に関するサポート。
- ・ 定期的に指導教員と学習方針についての話し合い（本人を含め）をした。
- ・ レポートのチェック。
- ・ 課題やレポートの作成、ゼミの発表の準備。
- ・ 担当留学生がコロナの影響で日本に来られなかったため、LINE を通じてレポートの手助け等をした。（2021 年度）
- ・ 授業に関する資料の提供と定期試験前の共同学習。
- ・ 試験勉強の指導と履修に関するアドバイス。
- ・ 日本語での講義についていって単位が取れるようにすること。（特に専門用語の習得）
- ・ 展覧会等、研究室の活動に参加してもらうためのサポート。授業内容に関する説明
- ・ 1 年間の研究成果を発表するための準備。
- ・ 具体的な実験方法や結果の評価法などの指導。
- ・ 修士論文執筆のための準備、実験室での技術指導。
- ・ 臨床研修に対する指導。
- ・ 実践授業に向けて授業の進め方や質疑応答の方法を説明し、模擬授業を行った。
- ・ 専門科目の予習・復習。
- ・ 大学院受験のための会計学および時事問題の勉強。
- ・ 大学院入試対策。
- ・ 授業内容の確認と講義で理解できなかったところの説明。
- ・ 英語の予習、レポートの書き方、試験対策。

- ・ レジューメ作成の方法、インターネットでの情報収集の方法の指導、図書館の有効な利用の仕方の指導。
- ・ 後期はレポートや課題が増えたので、常に留学生が困っていないか気かけながら、サポートが必要なときはお互いの都合のいい時間に手伝ったり指導したりした。
- ・ 授業のノートの取り方、学校の案内、パソコンルームの使い方。
- ・ 日本語で書いた文章（論文）のチェック、校正。
- ・ 担当留学生が講義でプレゼンテーションを行った際、その感想を日本人学生たちを書いてもらったのだが、その感想を翻訳（英訳）する作業。感想の翻訳は20名弱分のを行うのに毎回予想以上に時間がかかった。
- ・ LACS 等の活用方法を習得してもらうのが難しかった。
- ・ 同じ研究グループでの活動へのサポートが主だった。

③ 事務的な事柄についての援助

- ・ 漢字が読み書きできないので書類等の作成。
- ・ 履修登録の説明。
- ・ 留学生に送られてくる書類など、日本語文書の翻訳。
- ・ 日常生活での事務的な手続きのサポート。（口座・再配達・送金・マイナンバーなど）
- ・ 書類などの提出物の書き方、提出前のチェック。
- ・ 役所、学生支援センターなどでの事務手続き。
- ・ 書類の記入。（市役所・郵便局・アパートの入居手続き、受験関係）
- ・ 奨学金申請のための書類作成、和訳。

④ 生活上の援助

- ・ 寮（アパート）入居時の手伝い。
- ・ 銀行口座開設等。
- ・ 大学の寮に入居しなかったので、留学生を連れて不動産会社でアパート探しをした。
- ・ 生活するうえで必要なもの（光熱費や住居）の契約に関する書類作成。
- ・ 転入・転出の手続き。特に留学生が学位を取得し帰国する前の各種手続きは桜町まで行かなければならず、大変だった。
- ・ アルバイト探しや免許、電話の手続きなど、日常生活にかかわること。
- ・ 長崎の文化、長崎での生活情報の提供。
- ・ 日本の生活習慣について。

日本の生活に慣れるためのアドバイス。

- ・ 生活上の悩みやバイトに関する相談。
- ・ 日本の日常生活における文化や考え方の説明。
- ・ お互いが日常生活で経験したことをできるだけ報告しあうこと。
- ・ トラブルがあった時の代わりの対応。
- ・ 病気で入院したため、入退院の手続きや、その後の通院の付き添い。
- ・ 歯科受診の予約。
- ・ 留学生がもっとも必要としていたことは日常生活での交流だったと思う。よく留学生のアパートに誘ってもらったが、こちらの都合が合わなくて悩んだ。できるだけ時間を作っていっしょに過ごすように努めた。
- ・ ストレスの解消。留学生（特に私費留学生）にとって重要なのは一生懸命頑張ることだけでは

ありません。遊ぶことも大切だと思います。留学生の中には必死にアルバイトをし、勉強したあげく、体をこわしてしまった人が少なくないです。

適当な運動や、いろんな活動に参加することを通して、たまったストレスが解消できます。

- ・ 留学生が日常生活で困ったことがあった時、一緒に考えること。
- ・ 留学生と一緒にいること。それだけでも心の支えになることができると感じた。
- ・ 本人にとって初めての海外生活でもあり、通常的生活面でのサポートに加えコロナ関連での+ α のサポートが必要だった。（2020 年度）

⑤ その他

- ・ 大学卒業後の進路に関する相談。
- ・ 異なる文化のすり合わせということが活動の中心であり、最も意義のある部分だと感じました。
- ・ 学内施設の案内。

(2) その中で困ったこと、難しかったことは何ですか。

① 文化や習慣に関すること

- ・ 宗教と文化の違い。
- ・ 相手の国にない習慣を伝えること。
- ・ 礼儀作法を説明するのが難しかった。（その考えがなかなか理解できないようだった。）
- ・ 時間に対する感覚の違い。
- ・ 価値観の違いなど、伝えることが難しかった。
- ・ 実験に対する見解の違い、および文化的背景の違いから、説明がうまく伝わりづらかったこと。
- ・ 文化や習慣の違い。特に担当留学生は肉とアルコールがまったくだめだったので、何度か食事に誘えないことがあった。しかし、留学生に配慮し、特別メニューを作ってくれる店もあって助かった。
- ・ 韓国は日本から一番近い国であるのに文化がとても違い、研究室での生活において、時間を守ることをはじめとする基本的な日本の生活習慣を教えることが難しかった。
- ・ 普段、疑問にも思わなかったようなことを質問されて、返答に困ることがよくあった。自分が日本のことをいかに知らないか、思い知らされた。
- ・ 担当の留学生は日常会話を日本語で話すことができ、日本にも何回か来たことがあったため、とても日本に慣れていそうだったが、接してみると日本の文化や日本での常識をあまり知らなかったもので、外面だけで判断してはいけないと思った。

② 言葉・コミュニケーションに関すること

- ・ 私たちが日常使っている何気ない言葉に対する質問に悩まされることが度々あった。
- ・ 敬語・若者言葉の意味を聞かれること。

- 方言や口語表現を標準語で何というか頻繁に悩んだ。
- 言葉の壁。
- 相手が理解できる日本語や英語を使って教えなければならなかったこと。
- 留学生が理解しやすい言葉で説明しなくてはいけないこと。言いたいことが伝わらないことがあったこと。
- わかりやすい日本語に置き換えることが難しかった。
- 普段使っている日本語に対して質問されたとき、更にわかりやすい日本語で説明しなければならなかったこと。
- 会話が英語だったため、なかなか相手の気持ちを理解することができなかったこと。
- 教える時、日本語がよいか、英語がよいか迷う。
- タイ語・英語だけが会話の手段だったので、コミュニケーションが大変だった。辞書とジェスチャーで頑張った。
- 普段使っている日本語を説明する難しさ。説明を求められてもあいまいなことしかわからず上手く説明できなかったこと。
- 日本語の指導は違いなどを説明するのが難しかったが、使う場面を説明するとわかってくれた。
- 普段の会話で使う日本語と学会要旨に載せるような日本語の使い分けを指導するのが難しかった。
- その場の状況に即した話し言葉（敬語・方言）の説明。
- 日本語の間違いをどこまで訂正したらいいのか。
- 留学生の英語がなかなか理解できなかったこと。
- 話をするとき、身振り・手振り・表情がとても大切で、それらはコミュニケーションの際にとっても有効だということがわかった。

- ・ 自分の頭の中で考えたことを、わかりやすく簡潔にまとめて相手に伝えること。
- ・ 同じことを繰り返し伝えること。焦らずにわかってもらうこと。
- ・ 相手の必要としていることを理解したり、言葉がしっかりと伝わっているのかを注意して対話すること。

③ 担当留学生との関係に関すること

- ・ 直接会って会話ができなかったのも、きちんと伝わっているか不安だった。（＊2021 年度はコロナの影響で来日できず、多くの交換留学生等が自国からオンラインで授業に参加した。）
- ・ 留学生の不安、困難を察すること。
- ・ 自分自身も忙しくしていて留学生に対する配慮に欠けていたように思う。心配はしても、実際に言葉をかけたり指導することができなかったのが反省点である。
- ・ 担当留学生が遠慮して困っていることや分からないことを私に言わないこと。
- ・ 担当の留学生は少々人見知りの面があるようで、面と向かって交流する際に壁を感じた。もっと私のほうから進んで交流を図り、長崎を選んでよかったと思えるようになってほしいと思う。
- ・ 相手が必要としている時に、自分の対応が遅れてしまったこと。
- ・ 担当留学生が自分の指導に満足しているかどうか、わからないこと。
- ・ 留学生の遅刻、突然のキャンセルが多くて大変困った。
- ・ 基本的な考え方の違いから、お互いに相手を理解することが難しかったこと。
- ・ 時間が合わない。メールや電話をかけても、返信、折り返しの電話が来ない。
- ・ 会うためのスケジュールの調整。
- ・ 理解できれば必ず受け入れられるというわけではない。現実をどういう態度で受け入れるかが大事です。

④ 勉学・研究の指導に関すること

- ・ 研究室の活動内容を理解してもらうこと。
- ・ 自分でもよく説明できない専門用語がありましたが、先生に教えてもらって解決しました。
- ・ 毎回同じ実験ばかりだと飽きてしまうため、他の人をお願いしたり、私自身の実験のタイミングを合わせることに少し苦勞しました。
- ・ 自分が履修したことがない科目についての質問に答えること。また、そのレポート作成の補助。
- ・ 授業に提出するレポートの添削をしたときに、日本では使わないような表現や文として間違っている個所が数多くあり、1文1文を本人の意図するように訂正するのは大変だった。
- ・ 日本語の宿題について答えを教えないようにしなければならないこと。
- ・ 既に1回勉強した知識とはいえ、教える先生が代わると内容は全く違ってくるから、一から勉強し直すことも何度かあった。
- ・ 数学用語など、自分に説明が難しい場合は、数学科の院生に頼った。
- ・ 文章の添削は自分の作文力も試されるので、すごく悩んだ。専門用語を英語や日本語を使って説明するのは難しかった。
- ・ いっぱいありましたが、特に担当留学生の成績がなかなか上がらなくて苦勞しました。最後の方でやっとその原因がわかって、今はだいぶよくなりました。
- ・ ゼミの活動がめまぐるしいスピードで展開していくので、それを教えるのは難しかった。時々伝えるのを忘れたり、また伝えたつもりが、うまく伝えられていなかったりと、自分の力不足を感じた。
- ・ 説明の仕方。自分が分かりやすいと思っていても、別の説明の方が分かりやすかったりするので、何通りか説明を考えるようになった。
- ・ 私も日本語があまり上手ではなかったなので教える内容の中に私もわからないことがあってちょっと困った。（チューターは留学生）

- ・ 自分の考える優先順位と違った点。

⑤ その他

- ・ 時間の確保。
- ・ 単に受け身の姿勢で対応するのではなく、自分から何か企画や工夫をしてお互いの文化などについて知る必要があると感じた。
- ・ 水道代に関するトラブルで大家さんや水道局の人をまじえて話し合ったが、本人に納得してもらえない説明がなかなかできず、苦勞した。
- ・ 奨学金申請書類作成は自分にとっても初めてのことで、情報収集、仕上げに時間がかかった。
- ・ 日本人の友人を紹介する際に、友人が女の子に偏ってしまい、もっと男の子の友人を紹介すればよかったと思った。（留学生は男性で、チューターは女性）
- ・ 友達を増やせるような紹介ができなかった。
- ・ 研究室の学生たちと歓迎会などを行い、交流を深めることができたが、研究室以外の友人たちにも紹介する機会を設ければよかったと思った。
- ・ 最初は日本人がチューターをする方が留学生にとって良いと思った。自分は日本語が下手だから同じ国の人がチューターで安心だったし、講義の復習とかの勉強もしやすかったと言ってくれて、うれしかった。（チューターは留学生）
- ・ 留学生のアルバイト探しの補助。
- ・ 病院での通訳。
- ・ チューターである私自身が銀行やWiFiに精通しておらず、問題解決に至るまでに毎回ある程度の時間を必要とした。
- ・ 博士課程なので、ある程度自律的に行動する必要がある一方で、本人にとっては生活と研究の両面で初めてのことが多く、細やかなサポートが必要だった。

- ・ 私は今回初めてチューターを担当したが、コロナウイルスの状況を踏まえてどこまでサポートしていいのか、少し迷うことがあった。（2020 年度）

(3) チューターの活動を通して得たことは何ですか。

- ・ 研究をやるときの考え方や研究手法の違いについて。
- ・ 留学生の文化を知ることができた。
- ・ 自分自身の世界観が広がった。
- ・ 中国語、英語などを学ぶことができた。
- ・ 英語力向上に対するモチベーションの増加。
- ・ 自分の考えを伝える力。
- ・ 日本語に対するより深い理解。
- ・ 異文化理解やコミュニケーション力。
- ・ 留学生の友人、異文化理解、積極性、行動力。
- ・ 行動しないと、何も始まらないし、進まないの、とにかく行動しないといけない環境になるということが、自分にとって成長に繋がったと思う。また、同世代の学生が海外の大学に留学して講義を受講しているということを身近に感じる機会ができて、刺激になった。
- ・ 英語で話すことに対して、抵抗がなくなったこと。(間違っても恥ずかしいと思わなくなった。)
- ・ インド人の留学生のチューターとして活動したが、独特のイントネーションの英語だったので聞き取って理解するのに苦労した。しかし、ネイティブの英語をしゃべる人々の方が少ないため、英会話の良い勉強になったと思う。
- ・ 他の国の人と出会ったことで視野が広がった。また、専門分野に関する他国の状況等がわかり、今後の自分の勉強にも役立つと思う。
- ・ 相手の文化を理解することで、違う角度からも物ごとを見ることができるようになった。
- ・ どうしたら自分が伝えたいことを伝えられるか、相手を理解できるかを考え、試行錯誤する力を得ることができた。

- ・ 異文化理解やコミュニケーション力の重要性を実感し、相手に伝えたいことを正確に伝えようとする能力がついた。
- ・ 異文化を持つ人と交流することができたし、留学生から日本での最高の友人だと感謝されて、とてもうれしく、帰国の時は寂しかった。
- ・ 留学生は能力があるが、日本の風習など、実際に体験するのが初めてのことにに関しては戸惑っていた。日本人にとってはわかりきったことも丁寧に説明し、相手に納得してもらうことの大切さを学んだ。
- ・ 文化が異なる人の生活感の違いを身をもって知ることができた。留学生の友人が増えた。
- ・ 卒業の前にチューターを行い、友人関係に幅ができたこと。教えながら学べたことは有意義だった。
- ・ 留学生やその家族や友人とも良い縁を作ることができた。
- ・ 外国人と接する機会というのはこれまでの生活の中であまりなかったし、こういう制度がなかったら、自分から積極的に接するということはなかったと思うが、チューターをして積極的に外国人と接するようになった。
- ・ 他の文化の中で暮らしたり勉強したりすることは本当に大変だということを感じた。
- ・ 外国人にとって住みやすいとはいえない日本について知った。
- ・ 日本の豊かさを感じ、感謝の気持ちが持てるようになりました。
- ・ 留学生を支えながら、自分も成長しました。
- ・ 信頼関係を築くのは時間が必要だと感じた。
- ・ どうやって全く知らない人と信頼関係を築いていくかについて非常に勉強になりました。就職にも役に立つと思います。
- ・ 外国の人と交流するときに、根気よく付き合うということ。理解するためにはより一層（日本人同士よりも）の歩み寄りが必要だということ。

- ・ 国際間で習慣の違いがあつて、それをお互いに理解した上で信頼を築かなければならないこと。
- ・ 前回担当した留学生と国籍が同じであっても、性格や考え方等が異なるので、その人にあった接し方、サポートのやり方を見つける必要があること。
- ・ 今まで深く知る機会がなかった留学生の日本での生活について知ることができた。文化や物価等の違いにひるむことなくチャレンジをする姿は見習いたいと思った。
- ・ 留学生の日本語が上達していくのを身近で感じることができた。
- ・ 日本人の学生と話すときよりも、より相手の視点に立って考えて会話する必要がある、という教訓。文化や言語が異なっても、理解しようと勤めれば、その気持ちが通じるという実感。
- ・ 言葉の壁はあるが、決してわかりあえないわけではないと思う。それなりに大変だったが、いい経験だったと思う。
- ・ サポートをする際に私自身の英語力のなさを痛感しましたが、友情を生むために必要なのは言葉ではなく相手を思う気持ちだと学びました。
- ・ 最初は言葉が通じないことが苦痛でしたが、慣れてきたら、ジェスチャー等で意思疎通ができるようになって、自分の成長も感じることもできた。（最初の頃は、日本語が話せる留学生の方（チューター）に助けられた。）
- ・ 他人とコミュニケーションをとることが以前より上手になった気がします。チューターとしての役割を果たすのは難しいことだが、常に努力すれば、きっとコンタクトが取れるし、よい結果につながらと思う。
- ・ 相手が何を伝えたいのか、考えながら話を聞くようになった。
- ・ 相手に言いたいことや伝えたいことを伝えようとする能力がついた。
- ・ 異文化を理解するには先入観を捨てて、まずお互いに良く知り合うことが大事であると感じた。
- ・ 留学生に教えるということの大変さを経験したことが自分にとって非常によかった。また逆にいろいろ教えられることも多く、外国の人の見方で日本を見つめることができて新鮮だった。
- ・ まずは向かい合って会話をするのが大切だということがわかった。

- ・ 人間関係において、少しの時間でもコミュニケーションを取ることが大事だということ。
- ・ 相手の立場になって考えること。もし私が留学生の立場だったらという考えが少しながら身に付いたと思う。価値観の相違も学べた。
- ・ 人への配慮。自分のことだけ考えていたら、何の交流もできないし、できなくなると思う。日本人でも外国人でも「思いやり」ということがいかに大切なことかということに気づくことができた。
- ・ 日本人だから日本語を上手く話せているとは限らず、自分の使っている日本語を見直すことができました。
- ・ 自分の考え、意見をしっかり持ち、はっきり伝えることの大切さ。
- ・ コミュニケーションにおいては、互いに根気よく相手のことを理解しようとするのが重要だと学びました。
- ・ 普段のコミュニケーションの中では意識していないような「伝えよう」という気持ちを持ってコミュニケーションを行ったこと。
- ・ とてもまじめな人だったので、私も見習おうと思い、様々な点で努力するようになりました。
- ・ 様々な悩み事などを互いに話しているうちに、同じ考えを持っていることを知ることができた。
- ・ 留学生と話すときだけに当てはまることではないが、時間がかかるからといって、相手が言おうとしている事をこちらから言うのではなく、懸命に伝えようとしているのを根気よく聞くことで、誤解も避けられるし、本人の語学力の向上にもつながるのではないかと考えた。
- ・ “外国人”という思いが強かったが、話してみると、みんな同じ人間だと思った。
- ・ 自分とは違う視点で考えることを学んだ。また、長崎、ひいては日本を再認識することとなった。
- ・ 自分とは異なる考え方をする人間と出会い、色々な考え方を受け入れる必要があると思ったこと。
- ・ 違う国で育った人と半年という長い時間を一緒に過ごして、自分ももっと他の多くのことに興味を持ち取り組んでいきたいと感じられた。

- ・ アルバイトを探すとき、留学生を働かせてくれるところがなかなか見つからず、日本の生活について客観的に見つめることができた。
- ・ 何か困ったとき、頼れる存在がいることで、留学生の日本での生活がより充実したものになると改めて実感した。
- ・ 外国での生活に興味が湧きました。
- ・ 留学生の友達が増えた。様々な人と出会えた。
- ・ あまり興味の無かったアジアの国々への関心が高まり、中国語に力を入れようと思ったこと。
- ・ 宗教というものを今まで感じる機会というのが少なかったが、宗教について身近なもの（食べ物等）を通して触れることができ、いろんな違いを発見することができた。
- ・ やればできるという信念が私にも伝わってきました。
- ・ 自国で勉強するのとは違い、様々な苦難があるにもかかわらず、精一杯努力しようとする精神力を見習うべきだと思った。
- ・ 担当留学生の勉強、生活などいろんな面でサポートすることを通して自分がもっと強くなり、頼りがいのある人間になった気がします。
- ・ 私は実家生なので親に頼りきっていることが多く、マイナンバーカードの作り方や口座開設などしたことがなかったので、自立するための良い経験となりました。
- ・ 風習の違いによる様々な価値観を学べた。また、言葉の壁を越えて相手と共感できたときの喜びも味わうことができた。
- ・ 留学生から学ぶことも多かった。これからも教える立場であっても相手を尊敬し、よい関係を築いていきたいと思う。
- ・ 自分も留学してみようという意欲と興味がわいた。もっとたくさんの人（日本人でも外国人でも）と知り合い、その人の考え方や物の見方に触れたいと思うようになった。
- ・ 英語の重要性を知った。外国の文化に触れることができ、広い視野を持てた。自分も留学したいと本気で思うようになった。

- ・ 日本語学習のサポートはだいたい留学生、自分、日本語教員の勉強をしている友人の 3 人で行った。留学生は日本語の、自分は「どのような表現だと学習者に伝わるか」などの、友人は実際に日本語を教授する際の勉強になり、それぞれに得るものがあった。
- ・ 文化の違いからくる様々な困難を恐れなくなった、というより、文化の違い自体に興味が湧いてきた。
- ・ 生まれ育った国が違うため、考え方も異なっていて、物事の捉え方やアプローチ方法は 1 つじゃないことを学びました。また、普段何気なく行っている日本での慣習への疑問や好奇心も得ました。
- ・ 留学生が積極的に色々なことに挑戦する人だったので、私自身も活動的になった。このチューター活動を通して、英会話力を鍛えられただけでなく、世界中に友達の輪を広げることができた。完璧は英語力よりも、相手とわかりあいたいという気持ちや失敗を恐れず挑戦してみる姿勢が大切なのだと実感する日々だった。
- ・ 人の成長を目の当たりにしていると感じます。日本語会話の上達だけでなく、慣れない環境でも自分で計画的に研究を進めているところや、積極的に周りの人に日本語で話しかけているところなどを見て、学ぶことへの意欲の高さに驚いています。自分もまけないように頑張りたいと思います。
- ・ 国籍は違っても、お互いを理解し、信頼関係を築くことができれば、とても仲良くなれることを感じた。
- ・ チューターを大学の時にやるのとやらないのでは海外への関心が違うのではないかと思った。留学することと同じくらい、価値があった。



おわりに

これまで、留学生に対するインタビュー調査やチューターに対するアンケート調査の結果から、チューター制度がよりよく機能していくように、学生支援部 留学支援課と協力しつつ、システムの改善を行ってきました。

ガイドブックは1年毎に改訂し、チューターの皆さんにとって、よりわかりやすく、使いやすいものになるよう心がけています。

今後も『チューター・ガイドブックー制度の概要とチューターの心得ー』の改訂を考えています。内容について、皆さんの意見や提案をお待ちしています。

皆さんのチューターとしての経験が実り多いものとなりますように！



長 崎 大 学

留学生教育・支援センター

松本久美子

TEL: 819-2242

Kumiko-m@nagasaki-u.ac.jp

〔執筆・編集〕
長崎大学留学生教育・支援センター
松本久美子

チューター・ガイドブック

－ 制度の概要と、チューターの心得 －
(第25版)

2022 年 4 月 発行

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

長崎大学留学生教育・支援センター

TEL 095-819-2242
